

第2回桑名市学校教育あり方検討委員会 議事録

開催日時 平成28年6月1日(水) 9時20分～12時15分
9時20分から11時は桑名市立多度東小学校を視察
開催場所 桑名市多度町総合支所3階304東西会議室
出席者 <<委員>>

委員長	赤沢 早人	副委員長	鈴木 賢一
委員	青木 恵子	委員	石川 峰子
委員	伊藤 仁美	委員	佐藤 健治
委員	佐藤 正幸	委員	橋本 貴子
委員	原口 睦	委員	藤原 隆 ※
委員	松田 秀之	委員	渡辺 美紀

※藤原委員は多度東小学校の視察のみ参加

<<事務局>>

教育総務課長	教育総務課教育環境整備室長
公共施設マネジメント課主幹	財政課主幹
防災・危機管理課長補佐	都市整備課長補佐
指導課教育研究所長	指導課教育指導係長
指導課生徒指導係長	学校教育課学務係長
教育総務課主幹	教育総務課教育環境整備室主査
教育総務課教育環境整備室指導主事	

1 視察 桑名市立多度東小学校

2 委員長あいさつ

3 議事

(1) アンケートについて

委員長：それでは、次第の議事(1)アンケートの内容について、これは前回ご検討していただきました内容の引き続きでございます。今日の会議で決定したいという事務局からの提案が出ておりますので、よろしく申し上げます。

まず、事務局よりアンケートの内容の修正案について説明をお願いします。

事務局：修正案のアンケート対象者について説明

委員長：それでは、今の中身について検討していきたいと思っております。前回出してください

た「4階層 750名ずつ」が事務局案1で、今回出していただいた「5階層 600名ずつ」が事務局案2となります。前回の議事のご意見も踏まえてということになります。伺ったところでは、3,000名という配布数は予算の関係がありますので、確定とさせていただきたいということです。

何かこの案について、ご意見などありますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、ご意見がないようですので事務局案2、「5階層にわけて600名ずつ」配布するというかたちで進めるということで、了承とさせていただきます。

それでは、よろしく願いいたします。ありがとうございました。

次に、アンケートの内容について事務局より説明をお願いいたします。

事務局：アンケート内容の修正案について説明

委員長：ありがとうございます。それでは、今のご説明内容についてご質問がありますか。

事前に意見聴取をしていただいて、そのことを踏まえ、最大限生かす形で今回の修正案が提示されています。とりわけご関係が深いところについてもう一度ご確認いただき、文言も含めてご意見などがございましたらお願いいたします。

委員：一般の文章についてお伺いします。問3のところだけ、最後に回答欄に丸をつけてくださいとあるのですが、他のところでは書いていないので、初めのところに書いていただければよいかと思えます。

事務局：他の箇所と形式をそろえさせていただきます。

委員長：最終的に質問形式は統一してください。ありがとうございます。

委員：アンケートの対象については、私はよいと思っていますが、アンケートの内容に関わって一般の方にアンケートをするときに地域によって考え方の違いが出てくるのではないかと思っています。この人数を、どのように抽出するのか、ある程度の地域性も考慮しながら抽出するのか教えてください。

事務局：1階層の600名を小学校区毎で割りまして、地域別で考慮した人数を抽出するものでございます。

委員長：地域によって考え方が違うというお話です。地域が偏ると、それが桑名市の総意と言われてしまうといけないので、地域的なバランスも考えて送付先を考慮していただきたいと思えます。

委員：アンケートの集約をしていく時の効率化で、近ごろアンケートでは、別紙に枠を作成し、書いてもらうという形式があります。この方法は集約を効率的にできるということと、間違いがないと思えます。このアンケートは丸を付けてもらって、いくつも確認していかなければならないので集計に時間がかかると思えます。また、事務局の効率化ということで、もう少し集約をした結果が速やかに反映できるような方法をとられたらどうかと思えます。

委員長：ありがとうございます。事務局の負担も考えていただいた有益なご意見だと思います。

事務局：ご意見ありがとうございます。この集約については、外部発注させていただき
ます。その点はそれぞれの設問について番号を振りまして集計するという形式が
よいと、受注業者からお話しいただいておりますので、ご理解お願いいたしま
す。

委員長：その他いかがでしょうか。

私は事前にアンケートの修正案を見せていただきましたが、少しここは懸念か
なと思うところについて、少し意見を申し上げたいと思います。

1 点目が、6年生に向けたアンケートの間3です。クラス替え、クラス人数、
学年のクラス数のところで今学校に通っている子どもたちから、どのようなこと
がよいですかという思いを聞くというところがあります。おそらく子どもたちに
聞くとかなり多様な意見が出てくるかと思います。小規模校で7、8人というよ
うなクラスの子どもの回答と、比較的大きな学校の子どもの回答では意見が
多様になり、集約したときに、いろいろな意見があるという回答はできるの
ですが、そこから何を引き出すか、あるいは逆に子どもたちがクラス替えはした
くないとか、数は少ない方がよいというかたちの希望が固まった場合にその要望
を、この委員会でどう受けていくかというところでなかなか子どもの希望を聞い
て反映していくことが、どのような回答であっても扱いが難しいかと思います。
ただ、子どもたちが学校教育のサービスを受ける当事者ですので、やはり子ども
たちの意見も聞いておくというのは大事かと思う反面、扱いも難しいというこ
ろがあるということで、問3については、文言に異論がある訳ではないのです
が、これを聞くのがよいのかどうかについて、他の委員の皆さま方からご意見が
あればと思っています。

もう1点は、教職員向けのアンケートの大項目3で、学校が果たしている地域
コミュニティのことについてです。特に問13の、学校が今地域に対してどのよ
うな役割があると思いますかというところで、5つの役割を果たしているか、果
たしていないかを先生方に答えていただくところです。これは、同様の質問が市
民向けにもあります。先生向けは、果たしているかどうかと聞くよりも、学校が
主体的で果たすべきかどうかということをお伺いの方がよいのかと思います。
つまり、他にそれに該当する施設がないので、学校がその役割を引き受け、先生
方の業務になってきます。そのことを子どもたちのためにやるべきかどうかの意
見を聞いた方がよいのかと思います。地域と学校の連携は大切だということはも
ちろんですが、だからといって学校に全部を丸投げされてしまうと、学校の中心
である教育活動以外のところに時間がさかれることになり、やはり学校の本意で
はないという気持ちもあります。役割を果たしている、果たしていないではな
く、果たすべきなのか、果たす必要はないという聞き方がよいと思います。
これは私の一存ですが、学校関係の委員の方々でご意見をいただければと思いま

す。

委員：今の話を伺って、このアンケートのように聞いたら学校の教職員の人たち、あるいは一般の市民が、学校というのはこんな役割もあるのだなというように感じる心配もあります。ここの聞き方としては、学校施設のアンケートですから、学校の施設とあり方と、学校の先生がこういった役割を果たしているのかという部分が、この聞き方では曖昧なのかと感じます。校長の立場から、学校の施設としてはこれからこのような活用の仕方が望ましいだろうというのは考えとしてあってよいと思います。でも、それをすべて学校と教職員が担うのではなく、そのような施設の活用の仕方を考えていくのであれば、そのような体制づくりも併せていく必要があると思うので、そこは誤解のないような問い方がよいと感じました。

委員長：ありがとうございます。施設としてという部分と、そこで働く職員としてという部分でこの設問は、回答する先生がどう読まれるかを検討するべきところかと思えます。もし聞くのであれば、役割を果たしているというかたちの方が誤解が少ないのか、もしくは果たすべきであるという形にするのが良いと思います。それ以外のご提案があればお願いします。

委員：果たすべきというのは厳しい印象を受けます。他の先生方はいかがですか。

委員：果たすべきであると言われると、非常にプレッシャーになるかと思えます。実際にその施設で働いている中で、安全面やセキュリティの面も考えたときに、やはり体制づくりが整わないと、大事なことはよくわかるのですが、すべて請け負っていった時に学校だけでは到底やることができないと思います。最終的にこのように進めるのであれば、もちろん考えていただく必要があると思います。私も教職員の立場としてこの調査をやってみたときに、やはりここはどのように捉えてよいのかわかりません。大事なことはわかるのですが、学校がどれだけ忙しくなるのだろうといろいろなことを考えます。

委員長：果たすべきという言葉は、教員が担わなければいけないというプレッシャーということで、そのように受け取られがちかと思えますので、文言については事務局と相談して決めさせていただくという形にさせていただきます。先の委員のおっしゃった通り、果たしているということについて教職員の立場でどのように思っておられるかということを中心として書いていくようなものがあってもよいのかと思えます。果たすべきだということはわかっているし、実際に果たしているのですが、職員としての思いはどうかというところです。多忙化が進んでいるので、それは何らかの別の措置的なやり方で役目を全うできるような体制をつくってほしいというようなご意見があれば、この委員会としてはいろいろと検討していくことはできると思います。役割を担って果たしていることの思いを引き出せるような工夫をしていきたいと思っています。

委員：問 13 は、一度に 2 つの答えを求めようとしているので、設問と選択肢が誤解さ

れます。役割というのは、上のかっこの内容だと学校施設のあり方ということで設問されている訳ですね。問 13 の設問で、学校施設のあり方にどのような役割がありますかということで5つ書き、次の設問で、その部分として当施設においてはどのような役割をしていますかというのであれば、理解しやすいです。これは役割と、結果的な役割を果たしているかというのを一挙に聞いているので、誤解されると思います。ここにある選択肢5プラス1その他を入れて6個くらいに丸を付けてもらい、もう一つそれを補強していただくような設問を入れるのであれば、この設問は生きてくると思います。一般の方は要望としてどんどん出せると思います。地域として、このような役割があるということを先生方に認識していただくと共に、こういったことをやっていく部分でどういうところが自分のところが役割を果たしていないかを理解してもらえますし、またダメなところはどのようにしたらよいか、また別の部分で考えていける場にもっていけば、相乗効果的なものになるかと思います。問 13 は意図を汲むのであれば2分割方式か、設問内容を少し変える方がよいと思います。

委員：このアンケートを自分でやろうと思った時に、学校というのは地域コミュニティの拠点になってほしい、そのような形になっていくのが望ましいのだと思っています。自分としてはここに挙げられているものは大切なことなのだと思います。確かに役割を果たしているか、果たすべきかというとなかなか難しいので、逆に必要度を聞かれたら答えやすいかと思いました。こういうものが地域コミュニティの場に必要かどうか、という度数を聞かれたら答えやすいかと思います。

委員長：必要かどうかということについて聞くというご意見をいただきました。他の委員からは2つの事を同時について聞いているので、2段階にわけてはどうかということでした。ありがとうございます。

それでは、時間が限られていますので、今のご意見を踏まえて、この場で文言まで確定することは難しいかと思います。持ち帰らせていただいて事務局と相談しながら、この設問 13 については検討させていただきます。お任せいただいてもよろしいでしょうか。

小学校の問 3 については、このままでも構わないかと思いますが、子どもたちにもいろいろな意見があるので、それを尋ねる意味もあるかと思います。事務局で検討していただいたものですので、これで構わないでしょうか。

委員：それで結構だと思いますが、このアンケートの分析はどれだけひも付けをされるのでしょうか。例えば、各小学校で問 3 の答えが出るのでしょうか。1クラスなのか2クラスなのか、人数的に10名くらいの学校なのか、30名くらいの学校なのかによって回答は異なります。そこで各学校の規模によって子どもたちがどう考えているかという分析把握まで、問 3 でひも付けをするのであれば素晴らしいと思います。

委員長：クロス集計はしますか。

事務局：学校ごとに取りさせていただくので、そういったところまで見て集計させていただければと思っております。

委員長：では詳細な分析を入れるということも含めて、問3をこのまま実施するという形でよろしいでしょうか。それでは入れさせていただきます。

その他、何かございませんか。

今出していただいたご意見に基づきまして、一部先ほどの教職員向けのものについて文言の修正というところが残っておりますが、その部分については、私と事務局が相談の上、決定します。今回このアンケートの内容の確認と実施ということについての決定をさせていただきたいと思います。よろしいでしょうか。ありがとうございます。

最終確認させていただいて実施に向けてやっていきたいと思います。実施時期についても、事務局と相談させていただき決定していきたいと思います。

事務局：アンケート案が最終決定いたしましたら、委員の皆さまには郵送にて送付させていただきますので、再度ご確認をお願いいたします。

(2) 小規模校対策について

委員長：議事の(2)小規模校対策に関わりまして、本日見学していただいたことについて一言ずつご感想、ご意見をいただきたいと思います。

委員：私の子どもが通っているのも、大山田西小学校で小規模校といわれる学校です。同じような悩みを抱えているなと思いました。歴史が古い学校なので、更に問題が難しいなと思いつつ見させていただきました。なかなか答えの出ない問題ですが、皆さまのご意見を聞きながら私も頑張つて考えなければならぬと思いました。

委員：私自身は、今一番大きな学校に勤めています。一人あたりの活動するスペースが非常にあってうらやましい気持ちもしました。運動場でのびのび遊ぶ姿を見て、制約された中でしか遊べない我が校の子どもたちと見比べた時に、いいなというのが第一の感想でした。掲示物の貼り方にも余裕があり、小規模校は確かにデメリットもあるかもしれませんが、小規模校ならではのメリットも私の中ではたくさん感じて、子どもたちがのびのびと生活している姿や、行き届いた授業風景を見て、一つひとつの学習ルールが身に付いているところなども、先生方が一人ひとりの子どもを見ているのだなと感じながら今日は見させていただきました。サッカーなどを見ていても、2学年で遊んでいるところなどはやはり多度東小の地域性や、学校規模によってそうしないと遊べない人数というのがありますが、そういったよさもありながら、確かに人数が少ないことで遊びの部分にしても関わりの部分にしては、多少少ないところはあるのかとは思いました。私のいる学校では1年

生が今年 160 人いるのですが、その規模で学校をまわすことはそれはそれで大変なところがあり、どちらの方も感じながら今日は見ていました。対策というところが、まだ自分の中ではきっちりした答えですとかビジョンのところもまだ出ていないので、うまく話すことはできないのですが、施設面では老朽化が進んでいて子どもたちの安全面や、雨漏りということも考えていくと衛生面の部分も考えてもらいたいということは感じております。築年数が古いところもたくさんありますので、ほとんどの学校が同じような悩みを抱えているのだろうというところで、例えば職員の数が少なければ、雨漏りしていれば総動員でそこに駆けつけて掃除をしたりしなければいけないので、そういったところでは先生方は走り回っているのかなと感じました。

委員：母親の立場として思ったのは、やはり先生が一人ずつをきちんと見てくれていて、少人数のところは勉強の面では行き届いている気がしました。心配だったのが施設の老朽化で壁が落ちてきたり、雨漏りして階段が滑りそうだとか、衛生面ではすごくきれいにさせていただいてはいたのですが、やはり危ないところに入らないとか、非常階段もテラスのところは触らないとなっていましたので、その辺りも耐震補強に加えて、壁の補強や、外のフェンスの修繕などを直せば、今の環境であれば地域性としてもよい学校だという気はしました。

委員：自分自身が、小学校中学校と非常に同級生が多い学区にいましたし、教員になってからは、中学校ばかりにいますのでこのような学校もあるのだなと本当に羨ましく思いました。中学校の立場として見たときに、1クラス10人前後で生活してきた子どもたちが中学に入るといきなり100人前後の学年になります。そこで中一ギャップが課題と言われますが、そのつながが多度町は比較的小中連携がやりやすいところであり、いろいろな取り組みをしている訳ですが、メリットもあればデメリットもある、それをどうしていくかというのはまだはっきりとは申せませんが、小学校の先生方と一緒に考えていく必要があると思います。

委員：私は大阪の小学校、中学校を出ました。小学校は大阪市内ですから、ものすごく校庭、校舎が小さいです。1クラス45名で1学年3クラスか4クラスあります。今日皆さんがおっしゃっているように、あれだけ校庭のスペースをフル活用できるのは本当に羨ましいです。小規模校の魅力かなと思います。反面、小学校の中で大人数の荒波にもまれていると、中学校で1学年11クラス12クラスになっても、すぐに仲良くなる体制ができています。今の小規模校だとその中のネットワークが強くなるのですが、今度新たなネットワークをつくる時に不安が出るのかなと少し思います。それと、小規模校というのは予算の関係かもしれませんが、子どもたちが安全安心な場所で教育を受けていないのを見て愕然としました。本当に子どもたちを守るのであれば、もっとハードな面を厳しく見ないといけません。鉄骨が見えていつコンクリートが落ちてきて、いつ子どもが怪我をするかわからない

ような状況に置いている状況であるのに、お金を使わないというのは情けないかなと思います。親としても孫を持つおじいちゃんとしても、ぜひとも予算の有効活用と、学校の先生方が安心して子供たちを守れる場をつくってもらいたいと思います。

委員：今日は久しぶりに、子どもたちの授業を参観させていただけたことが、わたし自身うれしかったです。小学校3年生の孫がおりますが、こんなふうに座っているのかなということや、6年生の道德の授業ではこのような授業をしているのかということを見られ、私自身が勉強になりました。ありがとうございます。わたし自身も田舎育ちですが、それでも1クラス37名おりました。孫が大山田西小学校におります。その3年生のクラスは13名で、同じ大山田団地に住んでいても、津田や大山田東小学校はマンモス校です。そのバランスがこれでよいのかなと思います。わたし自身も田舎育ちですので、都会に出た時に気後れをしました。子どもたちにも、そういった意味では公平なクラスづくりというものが必要なのではないかと、ただ単純に思いました。孫は本当に行き届いた授業を受けているので、私もうれしいと本人も言っています。ですが、その子が大きくなっていったときにどうなのかなと考えると、これから目指しているところも必要なかなと思いました。

委員：私は自分自身が小中学校共マンモス校できまして、今は明正中学校におります。マンモス校とは言い難いですが、町中であまり校地面積が広くありませんし、かなり人口密度の高い学校です。今日は、休み時間に野球をいろいろな学年でやっていて、あのような姿を自分のところでは見ることはできません。それと、先生が一人ひとりを見るゆとりが感じられました。こういった仕事をしているよいところは、一日の中で何百人の子どもたちや地域の方々等、いろいろな人とあいさつをして関われることであり、なかなか他にはない仕事なのかなと感じています。一日に一人でも多くの子どもと目を合わせて会話しようというのが自分の目標ですが、これなら毎日目標達成できるなと思って見ていました。いろいろな子どもたちがいると思いますですが、子ども一人ひとりのいろいろな面が日々見られ、日々細かな成長が見られるというのは小規模校ならではのところを感じました。学校の老朽化に関しては、うちの学校も負けていませんので廊下も壁もボロボロです。その辺は先生方に協力していただいています。できるだけ子どもたちによい環境をとということで、少しずつ努力しているところではあります。子どもたち自身も、自分たちの学校を大切にしようということで中庭の手入れをしたりしています。こちらの動きとして何気なくやっていることですが、それを子どもたちが見て手伝ってくれる部分もあるので、多度東小学校の子どもたちもそういった部分では、いろいろなところに目を向けるような機会もあるのではないかと思います。

委員：まず今日一番に感じたのが、久しぶりの小学校の訪問ということで、学校に入っ

て子どもたちに会ってあいさつをして、学校の方針、子どもたちの目標、掲示物でもあいさつという言葉がたくさん見られて、その通りに子どもたちも行動していて、仕事から少し離れて気持ち良く時間を過ごせたというのが第一印象です。学校の中に入って、子どもの目線、先生が目線、親が目線、いろいろな目線で見させていただきました。小規模校ならではの目が行き届くという反面、少人数という部分でのメリット、デメリット、人数が多い学校には多い学校のメリット、デメリットがあります。小規模校のクラスを見ると、3年生では男の子2人女の子5人ということで、男の子2人の仲がよければよいのですが、果たしていつもそんなにうまくいくものかどうか、クラスの人数が多いと仲のよい子どもたちで集まれますが、2人ということで先生のご苦労も出てくるのではないかと思います。1年生も男の子3人、女の子6人ですし、15人いるクラスに対してはそれなりの刺激もあり、意見も活発に出るものですが、この辺のクラス経営は難しいと思います。ただ、運動場を見渡すと、1年生2年生が合同での取り組みがあり、放課後など1年生から6年生まで、今は横の関係が多い中で縦の勉強ができていると思います。私たちの子どもときと一緒に、通学団での縦の関係と同じように、学校の中でも1年生から6年生まで連携ができているのだろうと見ていました。また、子どもたちにとっては人数が少ないので、授業中でもよそ見もしていられないだろうと思いました。よい例でもあるのですが、なかなか子どもたちには厳しい面があるかと思いません。苦手な授業も息抜きで外を見ることもできないかなと、いろいろなことを感じました。その中で学校教育のあり方というものやいろいろなことを考えさせていただきました。施設面では校舎を見渡すと、廊下のスピーカーが傾いていてひとつネジが外れていました。落ちてくるといけないので教頭先生にご指摘だけはしてきたのですが、なかなか老朽化という部分で先ほどからご意見が出ていますが、安全面、地震が起こったときだけではなく、日頃から高いところから物が落ちてくるとい部分、目線が下に行きがちですので、そのようなところも気を付けていかなければいけないと思います。予算も厳しい中で、未然に防ぐための危機管理意識というところも持っていただければと感じました。この学校で築40年くらいです。また50年の学校もあります。そういったことも考えて遊具のサビの部分や、壊れている部分とか、適当な部分もあるなど見渡ししながら勉強させていただきました。

委員：施設面に関しても皆さんがおっしゃる通りだと感じました。私は学校の行事あるいは今日小規模校を見させていただいて思ったことですが、小規模校のよさはとてもアットホームな雰囲気であると思います。それぞれの先生が丁寧に関わっているところは感心して見させていただきました。子どもと先生との関係はとても密になっている部分があると思いついて見ました。人数が少ないからその規模できめ細かくやれるかという、そうではない部分もあり、先生方のご苦労

もあると感じました。規模は25名くらいがちょうどよいかと思っています。25人いれば個人差が少し開いていたとしても、モデルになるような子どもたちの割合が大きくなれば、きっと学級経営しやすいだろうなということも感じさせていただきました。授業を見させていただきまして、学び合いというところがこれからすごく大事になってくるかと思います。やはり先生と子どもの関係ではなく、子どもと子ども同士が考え合って、そしていろいろなことを発見し学んでいくということが重要だと考えると、やはり少し人数が少ないという部分があるかと思っています。これから求めていくのは思考力、判断力、表現力という部分をねらいとして言うと、もう少し人数がほしいのかなと感じました。もう一つは、教育の中で社会性を育てていくということも大事だと思います。そういった面を考えたときに、本当にこの人数でよいのかなと思います。自分の中の思いとしては、予算も課題もありどこをどうもっていくのが今後の子どもたちにとってよいのか、あるいは学校のあり方としてよいのかというのを総合的に捉えていく必要があるのではないかと感じました。

副委員長：大学で学生さんを教えていると、地方の子たちは元気がよくて、よく小規模校では競争力が育たないと聞くのですが、僕の実感はそうではなく、地方の小さな小中学校を出てきた子の方が大学で頑張っているように感じます。もちろん全員が全員そうではないですが、小規模校で競争力が育たないと言われるのはなぜかなと思います。学校の施設の点からいうと、昭和40年50年頃の人口増のときに標準設計で思い切り木造校舎を壊して、鉄筋コンクリートに変えていきまして、自分の経験でも小学校中学校が鉄筋コンクリートになっていく時代でした。皆さんがものすごく期待して、まずトイレが校舎の中に入ってきました。外にありましたから、校舎の中にトイレができ、スチールのサッシになり、中にはアルミのサッシもありましたが、何よりも鉄筋コンクリート造の真っ白の近代的な建物になったということで、すごく期待しました。それが40年50年経つともうこの言われようで、当時すごく日本人は鉄筋コンクリート造に憧れを持っていたと思います。しかしメンテナンスがひどいということで、ここまでくると非常にあの時は機能的なものをビシッとつくっていたなと思っていましたが、ただもうすでに、トイレが臭いとか、雨漏りがするというそのレベルの議論をしているようでは、学校はダメだと思います。機能は最低限必要です。ですが建築をやっている私からすると、空間としての豊かさがまったくないというのが残念で、その辺の議論ができるとよいと思います。今日は視聴覚室があるのを見て、まだ視聴覚室があるのかという感覚で、学校は遅いと思います。もっと時代の先を行かないと、かつては学校の方が時代の先端をいっていたような気がするのですが、今は社会から遅れているのではないかと思います。そこまで言うと語弊があるかもしれませんが、そのような感じを受けました。

委員長：ありがとうございました。

やはりいろいろなバランスの問題があり、その辺のところもちょうどよいのがどんなものであるのか検討していくのが、この委員会だと思います。今日は結論が出ない訳ですが、今日のこの感じ方を基にこの議論を深めていければと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは時間の方も少し超過しておりますので、これで締めさせていただきますが、何か他にご意見等ございますか。

それでは、以上で本日の議事を終了させていただきます。

4 その他

(1) 連絡事項

事務局：次回開催について説明

第2回桑名市学校教育あり方検討委員会閉会

12時15分終了